

令和4年(2022年)8月29日

保護者の皆様へ

国立市立国立第二小学校
校長 小林 理人

国立生まれのぶどうについて

夏休みが終わり、今日から2学期の学校生活が始まります。気持ちを切り替えや、生活のリズムづくりなど、保護者の皆様のご支援とご協力に感謝申し上げます。

さて、今年も国立生まれのぶどうが色づいてきました。二小のぶどうは、日本古来のヤマブドウの交配種で「国豊3号」という品種で、国立生まれのぶどうです。20年程前、ぶどうの品種改良に取り組んだ地域の方から苗をいただき、毎年実をつけています。

2学期末以降には校舎の建替えが始まり、学校生活が大きく変わることが予想されます。みんなでぶどうの味を楽しむことも難しくなるかもしれません。例年であれば、休み時間にお店(校長先生のぶどう屋さん)を開き、みんなで試食をするのですが、感染防止対策を講じる必要があります。

そこで、今年も夏休み前に袋掛けをし、希望する児童にビニール袋にいれたぶどうを持ち帰ってもらうことにします。詳細は以下の通りです。

- 学級を限定し、校長室でぶどうを入れた袋を配布します。
- ぶどうは配布する日かその前日に収穫し、水洗い等はせずにそのまま小分けにしてビニール袋に入れます。
- 配布は、校長室で行います。休み時間や下校時に密にならないよう工夫して取に来てもらいます。
- ぶどうはお家に持ち帰ります。
- 来週から1年1組から順番に配布する日を決めます。予定は裏面に示しました。
- 予備日を設定し、欠席したり、忘れたりした児童にも持ち帰ってもらえるようにします。また、家族の人数が多い場合は、少し多めにお渡しすることも可能です。

裏面をご覧ください →

国豊3号

今年、皆さんに味わっていただくぶどうは国豊3号という品種です。

この国豊3号という品種について、20年程前に苗をいただいた澤登さんにお話を伺いました。

この品種は日本古来のヤマブドウの交配種だそうです。日本の野生種であるヤマブドウは日本の気候に合っているために「強い」ことが特徴だそうです。この強さを生かして、農薬を使わずに自然に近い状態で栽培ができることがこの新種のよさだそうです。

20年程前、ぶどうの苗をくださった澤登晴雄さんは、国立の地で研究を重ね、日本にあったぶどう品種をたくさんつくりました。お話を伺った澤登さんのお父様です。

国豊3号はそのまま食べることもできますが、ワイン用として広く知られているそうです。詳しくは、インターネット等で調べてみてください。

子供たちが大好きな種のない大きな粒の甘いぶどうとは一味違う種のある少し甘酸っぱいコクのあるぶどうです。

農薬を使わず、自然の恵みだけで育った自然のおいしさをあじわってみてください。

配布する日

8/30火(1年生 6年生 プラタナス) 8/31水(2年生)

9/1木(3年生) 9/2金(4年生・5年生)

※天候等によって予定が変更する場合があります。